

キャリアプランを探るワークに『進学事典』をフル活用

「第一志望ならばあらゆる方法で入学を目指せ」と伝えると同時に、ちょっとでもいい大学ではなく、やりたいことができる進路を目指すよう指導しています」と小橋康之先生が進路指導部長を務める西の京高校。

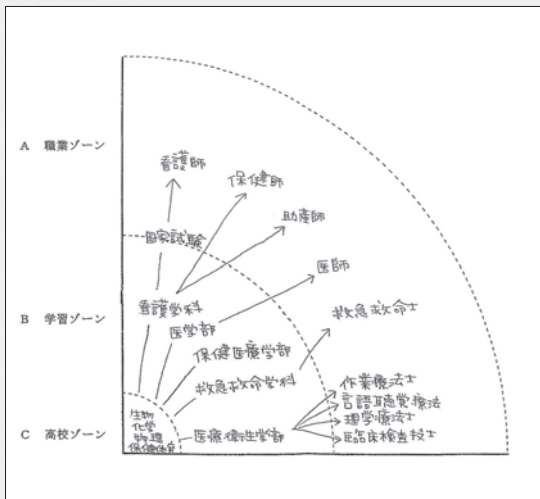
同校では総合的な学習の時間「弥生セミナー」やLHRで生徒が進路を探らし、課外の「実力養成講座」などでの希望を叶えるためのサポートをしている。

なかでも2学年は4月の進路適性検査「RCAP」の実施から始まり、仕事研究、学問研究などを行う進路探求の1年間だ。3学期にはその仕上げとして、『進学事典』を使った授業を行っている。

インデックスを縦横無尽に使い可能性を探求

2月に行う「ベクトルシート」(左図)は単線的な思考を複雑に広げ、関連分野も視野に入れたうえでキャリアプランを考えるためのワーク。「職業ゾーン」には将来の希望職種、

看護の道を選んだ生徒の「ベクトルシート」



このほか「私のベクトルシートの考え方」を説明する欄と、第一志望ルートの「志望理由」「実現への課題」「その課題への取り組み」を記入する欄が設けられている。



進路指導部長
小橋康之先生

趣味はマラソンと自転車。生徒にも「潜ぎ出さない」とゴールはない」と、まず行動することの大切さを伝えています。

リクルートサービスを活用した指導実践例

「学習ゾーン」にはそれにつながる学部学科・コース、「高校ゾーン」にはそのために今やるべきことを記入する。逆に現在の好きなこと・興味のあることから関連する学部学科、その先にある職業へとベクトルを伸ばしているのもよいし、「学習ゾーン」から始めてもよい。その際、第一志望だけでなくほかに興味のある分野や、近い分野についても調べ、なるべく広く枝を伸ばすよう指導するのがポイントだ。

『進学事典』には学問ごとに学べる学部学科や生かせる高校の科目などを解説したページ、仕事名から身につけたい知識やつながる学問などを調べられるページ、学問分野から学校を検索できるページなど複数のインデックスが用意されている。

「生徒それぞれに適した入口のある『進学事典』があるからできた授業。担任への事前研修では、いろいろなベクトルを考えられるよう、インデックスを縦横無尽に使わせてほしいと伝えました。その後も常に机に入れ、よれよれになるまで使っている生徒がいきました」という。

スクールデータ

生徒数 / 946人(男子432人・女子514人)
 普通科31学級
 進路状況(2009年度) / 大学・短大進学70.1%、専各進学22.3%、就職3.3%、その他4.3%
 奈良県奈良市六条西3丁目24番1号
 電話 / 0742-46-7501 URL / <http://www.nishinokyo-hs.ed.jp/>